

2025年2月23日

姨捨棚田 独特の美しい景観の原点

—過去の「山体大崩壊（巨大地すべり）」で出現した土の斜面と水源—

信州大学名誉教授（地震学） 塚原弘昭
（真言宗智山派 明德寺住職）

1 姨捨棚田の美しい景観の特徴

(1) 尾根の上にも棚田が並ぶ

—山や樹木に邪魔されることなく棚田の景色を目にすることができる—

全国に棚田地域は無数にあるが、月明かりの下で、棚田に映る月と頭上の月とを、同時にその場で楽しめる場所は少ない。姨捨棚田は、同時に観ることができ、楽しめる場所として知られている。この地の、この景色は「田毎の月」として芭蕉の句や広重の浮世絵に描かれ、月の名所として知られている。

水田には大量の水が必要なので、山間地での棚田の水田は、谷川に沿って、谷の底に造られているのが普通である。しかし、谷の底では、山や樹木が邪魔をして、頭上の月と棚田に映った月とを、同時に見ることはむずかしい。ところが、姨捨棚田地域では、高台（尾根）にまで広い範囲にわたって棚田が造られている。そのため、山や樹木に視界をさえぎられることなく、棚田に映った月と、頭上の月とを一つの視野に納めることができるので、同時に二つの月を観賞することができる。これが、姨捨棚田の景観の、第一の特徴である。

(2) 眼下には、千曲川、善光寺平（長野盆地）のすばらしい景色が広がる

第二の特徴は、棚田の背景となる遠景の美しさである。姨捨棚田から眼下を眺めると、昼間はもちろん、夜でも満月の夜には、北に向かって流れる千曲川、その先にある善光寺平、また、人間活動の様子を示す無数の建造物や自動車の放つ光、これらが尾根の上にある棚田群の背景（借景）となり、棚田の景観の引き立て役にもなっている。

芭蕉や一茶、広重の江戸時代にはなかった現在の人々の生活を写した棚田群の背景である。これは、姨捨棚田群の位置が、日本有数の広さを誇る盆地（長野盆地、別名善光寺平）を一望できる位置にあるという幸運にも恵まれているためである。

2 姨捨棚田は、どのようにしてできたのか？

(1) 古三峯山（こみつみねさん）の巨大地すべりによる山体崩壊

およそ40万年前までは、現在の三峯山（みつみねさん:1,131m）の位置（JR篠ノ井線の姨捨駅から南西方向約2.5kmの地）に、2,000m級の山がそびえていた。今は無いその山の名を、ここでは仮に、古三峯山（こみつみねさん）と呼称する。およそ40万

年前、巨大地すべりがこの山で発生したことは、地質調査で解明されている。この巨大地すべりで、古三峯山は山頂を含めて大崩壊し、三つの山頂を持つ山として残された。現在、一番高い山が三峯山(1,131m)と呼称されている(図 1 を参照)。巨大地すべりで、滑り下った地面の最上端は、現在ゴルフ場の上端の山ぎわである。

その 30 万年後(今から 10 万年前)には、40 万年前の巨大地すべりで、滑り降りてきた土砂の内部で、さらに、大地すべりが発生した(現在の大池の山ぎわがその地すべりが出発した最上地)。この2回の大地すべりで滑り降りた土砂と、その後発生した中小の地すべり群によってすべり降りてきた土砂が現在の姨捨棚田の土壌となった。

(2) 住民による溜池(ためいけ)造りと用水路の整備、配水組織の運用

地すべりの最上地には、崖ができ(滑落崖・かつらくがい)、その崖からは地下水が湧き出てくるのが普通である。10 万年前の大地すべりでできた崖から、湧き出た地下水に目をつけ、住民が、稲作用の溜池(ためいけ)として整備し、貯水した(現在の「大池(おおいけ)」)。この大池から水路を作り、棚田のコメ作りに活用したのは、江戸時代からである。その用水により、姨捨棚田地域では、従来の川が流れる谷底だけでなく、「尾根の上」でも、用水からの水により稲作ができるようになった。単に水だけではなく、土壌も、稲作のできる地すべり地特有の、粘土混じりの土であるので、稲作の条件にかなっていた。尾根の上での稲作が姨捨棚田の美しさの本源の一つである。

写真 1



写真2 冠着橋付近から西方を見た写真

古三峰山の大崩壊で出現した A~D の峰 (B が現在の三峰山)

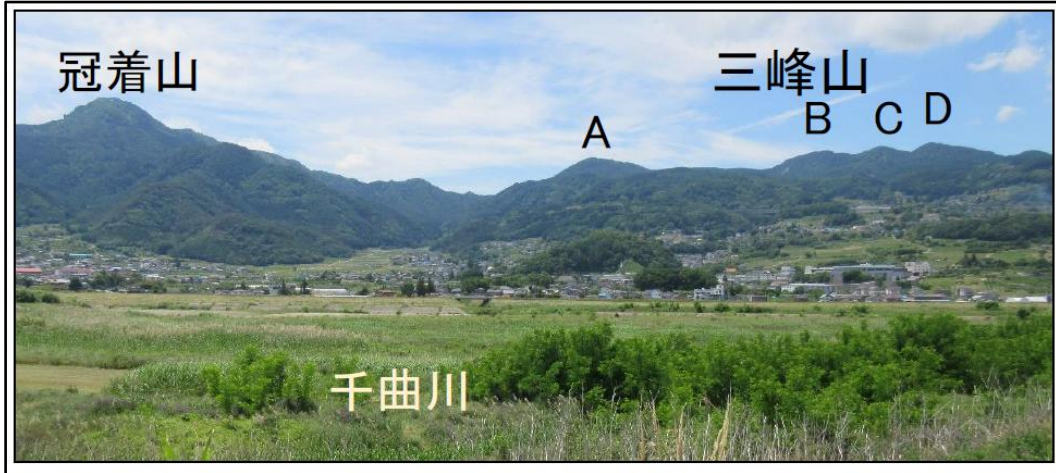
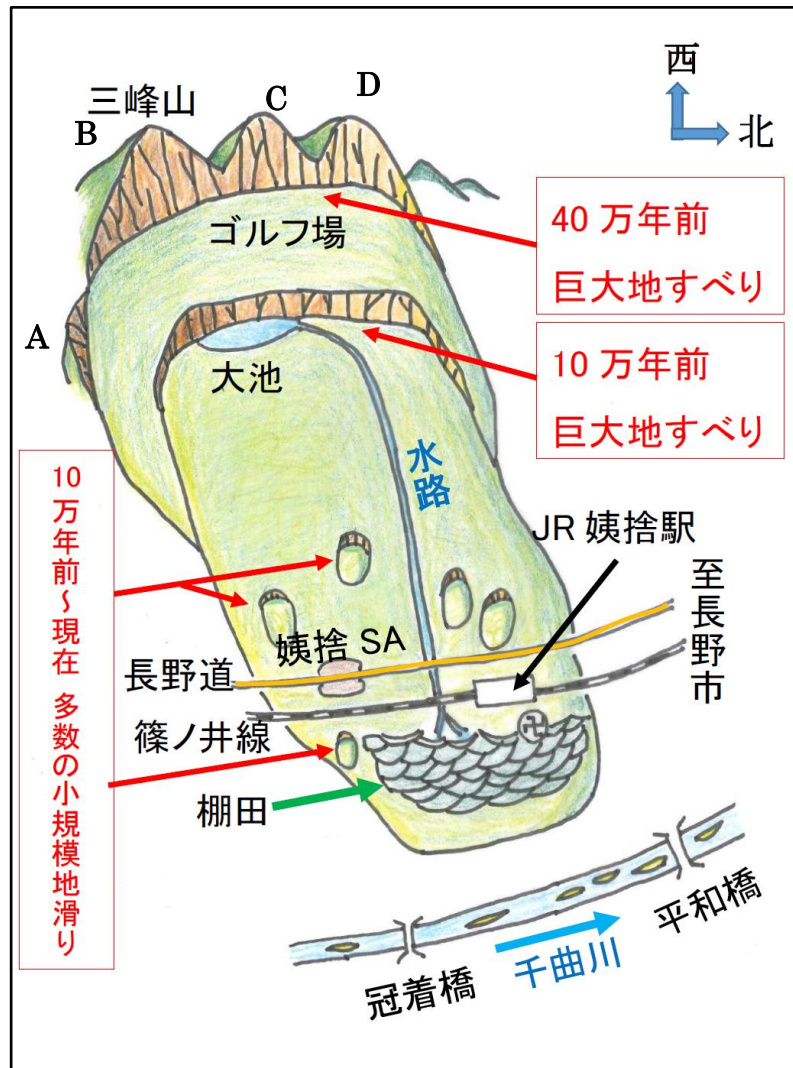


図1 二つの巨大地すべりと
姨捨棚田の土壌の形成 (A~Dの山は写真に対応)



諸団体が、以下の写真のような活動(青空教室や、見学会、稲作経験など)をしている。これを通じて、市民の皆さんが、姨捨棚田を舞台に自然を観察し、「ここで、過去に何が起き、現在は、何が起きつつあるのか」を知ることに関心を持っていただければ嬉しい。(青空教室、市民見学会の説明役は筆者)



過去に、巨大地すべりが2回起きたことを示す三峰山周辺の、現在の地形の陰影図（カシミール・カシバードによる）。2つの巨大地すべり（山体崩壊）の崩壊上端を黒細線で示した。

